

1. 職名・氏名 講師 デモン ジヤレット リー レルト

2. 学位 学位 博士、専門分野 日本学、授与機関 クイーンズランド大学、授与年月 26年11月

3. 教育活動

(1) 講義・演習・実験・実習

① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

令和1年

英語 I（4コマ、各1単位） 英語 II（2コマ、各1単位） 英語特論 IVE（2コマ、2単位）  
異文化理解（1コマ、2単位） 日本の文化と社会（講義1回分） 現代人権論（講義1回分）

平成30年度

英語 I（4コマ、各1単位） 英語 II（2コマ、各1単位） 英語特論 IVC（2コマ、2単位）  
異文化理解（1コマ、2単位） 日本の文化と社会（講義1回分） 現代人権論（講義1回分）

平成29年度

英語 I（6コマ、各1単位） 英語 II（2コマ、各1単位） 英語特論 IVA（1コマ、2単位）  
異文化理解（1コマ、2単位） 研究の世界（講義1回分） 現代人権論（講義1回分）

② 内容・ねらい（自由記述）

令和1年度

英語特論を除き、各授業の内容とねらいは前年度とほぼ同様であった。

英語特論では、オーストラリア事情の本（英語学習者向け）を用いた。オーストラリアについての知識を身に付けるとともに、英語の4技能を実践的に使い、コミュニケーション能力を向上させた。研修先で行いたい簡単なフィールドワークとその計画を考えさせた。

平成30年度

英語 I・II では、オーストラリアのテレビ番組を基本資料として使い、英語の4技能を実践的に使いながら、コミュニケーション能力を向上させた。オーストラリアへの海外研修に興味を持たせる狙いもあった。

英語特論では、オーストラリアの歴史に関する映像を基本資料として用いた。オーストラリアについて知識を身に付けるとともに、英語の4技能を実践的に使い、コミュニケーション能力を向上させた。本年度海外研修へ行く学生をサポートする狙いもあった。

異文化理解では、日本語の教科書を基に、英語の講義を通して異文化について理解を深め、異文化理解の入門的な知識が身に付く内容とした。物事を英語で考える力を養うため、課題も英語で実施した。

日本の文化と社会では、ポピュラーカルチャーとクールジャパンについて講義1回を行った。

現代人権論では、オーストラリア日系人の強制収容について講義1回を行った。

平成29年度

英語 I・II では、オーストラリアのニュース番組を基本資料として用い、英語の 4 技能を実践的に使いながら、コミュニケーション能力を向上させた。オーストラリアへの海外研修に興味を持たせる狙いもあった。

英語特論では、各学生が興味のあることを通して海外研修先について知識を身に付けるとともに、英語の 4 技能を実践的に使い、コミュニケーション能力を向上させた。本年度海外研修へ行く学生をサポートする狙いもあった。

異文化理解では、日本語の教科書を基に、英語の講義を通して異文化について理解を深め、異文化理解の入門的な知識が身に付く内容とした。物事を英語で考える力を養うため、課題も英語で実施した。

研究の世界では、オーストラリアの日本人移民・移住者について講義 1 回を行った。

現代人権論では、オーストラリア日系人の強制収容について講義 1 回を行った。

### ③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述）

#### 令和 1 年度

英語 I・II では、採点・添削の負担軽減を図り、課題の回数と内容を変更した。昨年度、授業中にアクセスの不具合が何度か発生したため、F レックス上のオンラインでのテストを取りやめ、紙形式に戻した。

英語特論では、リスニングのログを導入した。このログは、ネイティブが話す英語に慣れ親しむため、オーストラリアで流れている番組や動画などを定期的に視聴する課題だった。

#### 平成 30 年度

後期の英語 I・II では、より質の良い番組の映像を入手し、資料として使った。自ら作成してきた教材の形も変え、学生同士が英語でコミュニケーションをとる機会を増やした。初めて F レックスを利用し、授業の資料を提供したり、オンラインでテストを行ったりした。

英語特論では、自由研究型の授業を止め、より海外研修先の歴史や国民について知識が得られる内容に変更した。授業中に英語でのペアワークを特に重視し、研修後の報告会へ向けて課題を与えた。

異文化理解では、講義と課題が英語で行われるため、学生が事前に十分準備ができるよう、各回の課題と説明を初回の授業で配っておいた。

#### 平成 29 年度

英語 I・II では、授業のガイダンスとパワーポイントをより分かりやすく簡単にまとめた。毎回授業で学生同士が英語でコミュニケーションをとる機会も増やした。

英語特論では、海外研修先についての自由研究型の授業に変えた。学生が自ら収集したものを授業の資料として使い、毎週私と個別相談をしながら研究結果を英語で 3 回プレゼンテーションさせた。

異文化理解では、異文化理解の根本的な概念をよりよく理解できるようにするためテキストを変更した。英語力が低い学生でも周りの英語力を気にせず、受講できるようにするため、授業形式をディスカッション型から講義型に変えた。

(2)非常勤講師担当科目

① 担当科目名 (単位数) 開講学校名

令和1年度

なし

平成30年度

なし

平成29年度

なし

②内容・ねらい (自由記述)

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 (自由記述)

④本学における業務との関連性 (自由記述)

(3)その他の教育活動

内容

令和1年度

LEAP (ブリスベン) 参加学生の円滑な就学に向けた現地視察と活動確認を行った。9月10日～9月13日。

LEAP・LCAP 報告会・相談会の学生相談 (一部)・出席。12月16日～12月20日

平成30年度

LEAP (ブリスベン、ゴールドコースト) 参加学生の円滑な就学に向けた現地視察と活動確認を行った。9月4日～9月7日。

LEAP・LCAP 報告会の学生指導・準備・出席。11月26日～11月30日

LEAPの説明会と選考に参加。12月4日～12月6日、1月30日～1月31日

オーシャンズXで担当者と学生と英会話に参加。前期、金曜日の授業後、30分程度。

LMSの講習会に参加。7月11日。

研究教育フォーラムに出席。12月12日。

平成29年度

LEAP (ブリスベン、ゴールドコースト) 参加学生の円滑な就学に向けた現地視察と活動確認を行った。9月4日～9月8日。

LEAP・LCAP 報告会に出席。11月9日

LEAPの説明会と選考に参加。1月17日と2月9日

昼休みにワールドカフェで担当者と一緒に学生との英会話に参加。週に1・2回程度。

#### 4. 研究業績

<b>(1)研究業績の公表</b>
① 論文 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所について)、掲載雑誌名(号数)、掲載(受理)年月日) なし
② 著書 (タイトル、共著者の有無(共著の場合は主たる担当箇所または担当ページ)、出版年、出版社名) なし
③ 学会報告等 (タイトル、報告学会(大会)名(開催年月日)、共同報告者の有無(共同報告の場合は主たる担当箇所)) Japanese lifestyle migration, narratives and lifestyle migration theory、オーストラリア学会第24回地域研究会(関西例会)、平成29年3月25日、単独。
④ その他の公表実績 なし
<b>(2)学会活動等</b>
学会でのコメンテーター、司会活動(担当報告名、担当学会(大会)名(開催年月日)) なし
学会での役職など(学会名) なし
学会・分科会の開催運営(担当学会(大会)名(開催年月日)、開催場所) なし
<b>(3)研究会活動等</b>
① その他の研究活動参加(参加研究会名、調査活動名(期間))  <u>令和1年度</u> ア) オーストラリア学会第28回地域研究会(関西例会)に出席、4月20日 イ) 学術教養センターの研究会に出席、5月29日 ウ) オーストラリア学会30周年記念国際大会に出席、6月15日～16日 エ) 日本移民学会第29回年次大会に出席、6月29日～30日 オ) 学術教養センターの研究会に出席、10月16日  <u>平成30年度</u> ア) 「地域から世界へ」の研究会に参加、6月20日 イ) 日本移民学会第28回年次大会に出席、6月24日 ウ) 「留学における異文化適応と人間関係」特別講座を主催、7月5日 エ) 「異文化コミュニケーションとアイデンティティ」研究会を主催、7月5日 オ) 日本移民学会冬季研究大会に出席、12月8日 カ) 「地域から世界へ」の研究会に出席、12月11日

#### 平成 29 年度

- ア) 「ミドルクラス移民の社会包摂」の研究会に参加、6月9日
- イ) オーストラリア学会 2017 年度全国研究大会に出席、6月17～18日
- ウ) 「福井の魅力：フランス人を駆り立てるものは何か」の研究会に参加、11月1日
- エ) 「地域から世界へ」の研究会に参加、11月20日
- オ) 「地域から世界へ」の研究会に発表、12月22日
- カ) 「地域から世界へ」の研究会に参加、1月17日
- キ) 「地域から世界へ」のオーストラリア調査に参加し、共同研究者をサポート、3月19日～3月23日

#### ② その活動による成果

##### 令和 1 年

- ア) オーストラリア短期留学の教育効果と問題点に関する発表を聴講した。四つの私立大学が行っているプログラムの事情が紹介され、それぞれの課題を知ることが出来た。自分が担当している LEAP を見直すいい機会になった。
- イ) センター内の国際交流委員により、以前勤めていた教育機関での留学生向けチューター制度について発表が行われた。留学生のニーズについて理解が深まった。
- ウ) オーストラリア事情やオーストラリアにおける日本人コミュニティに関する発表を聴講した。懇親会では、以前日本人移住者に関する共同研究を行った複数の研究者と情報交換をし、今後の研究に関する方針についてアドバイスを受けた。
- エ) 海外における日本人移住者・日系人コミュニティに関する発表を聴講した。自分の専門分野であるオーストラリア以外の事情が紹介され、総合的な理解が深まった。今後参考にしたい論文を知ることができた。
- オ) センター内の研究・広報委員により、教養と教養教育の変遷について発表が行われた。教養教育の原点について理解が深まった。

##### 平成 30 年度

- ア) 共同研究者と今後のオーストラリアでの調査や伝統工芸に関する研究計画の方向性について意見交換を行った。
- イ) 海外における日本人移住者・日系人コミュニティに関する発表を聴講した。自分の専門分野であるオーストラリア以外の事情が紹介され、総合的な理解が深まった。今後参考にしたい論文を知ることができた。
- ウ) 招へいした昭和女子大学女性文化研究所特別研究員がゲスト・スピーカーとして、昼休みに、オーストラリアで日本語を学ぶ韓国人移住者の事例を発表し、出席者と質疑応答を行った。
- エ) 招へいした昭和女子大学女性文化研究所特別研究員が短期海外研修に参加する学生向けに1時間の講演をし、出席者と質疑応答を行った。
- オ) 海外における日本人移住者・日系人コミュニティに関する発表を聴講した。自分の専門分野であるオーストラリア以外の事情が紹介され、総合的な理解が深まった。今後参考にしたい論文を知ることができた。
- カ) 永平寺町での調査報告が行われた。

平成 29 年度

- ア) オーストラリアのミドルクラス日系コミュニティの調査について参加者 3 人が経過状況を報告するとともに、今後の研究の方向性について意見交換を行った。
- イ) オーストラリア事情やオーストラリアにおける日本人コミュニティに関する発表を聴講した。懇親会では、以前日本人移住者に関する共同研究を行っていた学者達と情報交換をし、今後の研究に関する方針についてアドバイスを受けた。
- ウ) 共同研究者と福井県の観光事情を確認しながら、今後の研究計画の方向性について意見交換を行った。
- エ) 共同研究者と福井県の健康長寿の事情を確認しながら、今後の永平寺町での調査について意見交換を行った。
- オ) 共同研究者と今後のオーストラリアでの調査や伝統工芸に関する研究計画の方向性について意見交換を行った。その中で私はオーストラリアの健康長寿・観光・伝統工芸事情についての発表をした。日本や福井県の伝統工芸の事情についての発表も行われた。
- カ) 今後のオーストラリアでの調査について打ち合わせを行った。
- キ) オーストラリアのブリスベンで共同研究者と合流し、現地のオリエンテーションや調査のサポートなどを行った。

**(4)外部資金・競争的資金獲得実績**

なし

**(5)特許出願**

なし

5. 地域・社会貢献

(1)学外団体
① 国・地方公共団体等の委員会・審議会（それぞれの名称、業務内容、担当期間） なし
② 国・地方公共団体等の調査受託等（それぞれの名称、業務内容、活動期間） なし
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加（それぞれの名称と活動内容、活動期間） なし
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動（企業名、活動内容、活動期間） なし
⑤ 大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等（事業名称及び主催・共催者名、活動内容、活動期間） なし
⑥ その他（名称、活動場所、活動期間） なし
(2)大学が主体となっている地域貢献活動等
① 公開講座・オープンカレッジの開講（タイトル名、開催場所、開催日時）  <u>平成 29 年度</u> ケンダイ・ワールド・ツアー（オーストラリアの日本人：過去そして現在）、福井県立大学ワールドカフェ、7月 27 日
② 社会人・高校生向けの講座（タイトル名、開催場所、開催日時） なし
③ その他（名称、活動場所、活動期間）  <u>令和 1 年度</u> 「片山智彦先生を偲ぶ会」実行委員（11 月 2 日開催） 聴講生・科目等履修生開講科目を担当し、適宜に学習サポートを行った。 ・英語 II（聴講生 8 名、科目等履修生 2 名） ・異文化理解（聴講生 2 名）  <u>平成 30 年度</u> 聴講生・科目等履修生開講科目を担当し、適宜に学習サポートを行った。 ・英語 II（聴講生 3 名、科目等履修生 1 名） ・異文化理解（聴講生 1 名）  <u>平成 29 年度</u> 聴講生・科目等履修生開講科目を担当した、適宜に学習サポートを行った。 ・英語 II（聴講生 1 名、科目等履修生 1 名）
(3)その他（個人の資格で参加している社会活動等） （活動内容、主たる活動場所、活動期間） なし

## 6. 大学の管理・運営

<b>(1) 役職 (副学長、部局長、学科長)</b>
(職名、期間) なし
<b>(2) 委員会・チーム活動</b>
(名称、期間)  <u>令和 1 年度</u> 国際交流委員会 研究・広報委員会 親睦会 入試出題 (一般選抜英語科目主任、出題・採点)  <u>平成 30 年度</u> 国際交流委員会 (旧海外研修ワーキンググループ) 職場委員会 親睦会 入試出題 (一般選抜英語科目主任、出題・採点) 人事委員会 (英語) (オブザーバーとして参加)  <u>平成 29 年度</u> 海外研修ワーキンググループ 職場委員会 親睦会 入試出題 (一般選抜英語の出題・採点)
<b>(3) 学内行事への参加</b>
(行事名、参加日時)  <u>令和 1 年度</u> 履修ガイダンスで発表、4 月 2 日。 全学ミーティングに参加、5 月 29 日、7 月 31 日、9 月 25 日、12 月 25 日。 ワールドカフェで開催されるイベントに参加、5 月 8 日、5 月 16 日。 オープンキャンパスの際、図書館前にてセンター内の研究・広報委員と来場者を出迎え、一般教育科目について案内をした。8 月 4 日。  <u>平成 30 年度</u> 全学ミーティングに参加、4 月 11 日、5 月 9 日、6 月 6 日、11 月 28 日、2 月 19 日。 ワールドカフェで開催されるイベント「文化を知ろう」で発表、6 月 19 日。 シンガポール海外研修の報告会に出席、4 月 26 日、10 月 30 日～11 月 1 日。 オープンキャンパスの際、ワールドカフェにて来場者を出迎え、大学生活などについて話をするなどの交流をした。8 月 5 日。  <u>平成 29 年度</u> 入学式に出席、4 月 7 日。 経済学部オリエンテーション合宿の引率、4 月 8～9 日。 ワールドカフェで開催されるイベントに参加、4 月 28 日、5 月 18 日、8 月 3 日、8 月 27 日、12 月 22 日。 シンガポール海外研修の報告会に出席、4 月 27 日、10 月 10 日。 オープンキャンパスの際、ワールドカフェにて来場者を出迎え、大学生活などについて話をするなどの交流をした。8 月 6 日。



(4)その他、自発的活動など

(活動名、活動内容、活動期間)